

【論文】

新型コロナウイルスに対する方針・意見にメディア利用タイプ
および日本人意識・グローバル意識が及ぼす影響についてThe Influence of Media Usage Type, Cosmopolitanism,
Nationalism, and Patriotism on Policies and Opinions
Regarding COVID-19山下 玲子[†]

1. 問題の所在と研究課題

新型コロナウイルスが世界的に流行して以降、日本国内はもとより世界中で人々は、これまでにないような様々な事態に遭遇することとなった。2020年2月には、横浜港に寄港した大型クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客において感染者が相次ぎ、同年3月には中国、韓国、ヨーロッパ諸国からの入国制限も開始された。それと前後するように、全国の小学校・中学校・高等学校に臨時休校が要請され、さらに、東京で開催される予定だった「東京オリンピック2020」の1年延期も決まった。そして、4月7日には、政府が7都府県に緊急事態宣言を発令、同月16日にはそれが全国に拡大された。そのような事態に際し、2020年以降、多くの研究者が新型コロナウイルスの流行の人々の心理に与えた影響について研究を行い、その成果を発表してきた。

たとえば、山縣ほか(2021)は、感染症の流行下においては行動免疫システム(Schaller & Park, 2011)が発動し、特に、新型コロナウイルスのような輸入感染症の場合には外国人に対して排斥的な態度の形成や行動が見られるのではないかと提起している。また、藤(2020)は、存在脅威理論(Solomon et al., 1991; 2015=2017)を根拠に、新型コロナウイルスにより顕現化した死の恐怖が、自分たちの価値観にかなう生活をする人たちにはポジティブな反応を、しない人たちに対するネガティブな反応を引き起こしていると主張している。そして、元吉(2021)は、新型コロナウイルスに対する感染回避や規範逸脱者への嫌悪感、新型コロナウイルスに対する不安は、国内の感染状況が異なる地域の間で差は見られないが、男女差は見られることを示している。これらの研究はすべて、新型コロナウイルスの流行により自分とは異なる属性を持つ者(外国人や規範に従わない者など)への忌避や差別、攻撃行動などが起こりうることを想定し、その心理的メカニズムを明らかにすることを試みている。

他方、この時期、テレビなどの既存メディアは、「新しい生活様式」の推奨から取材や番組収録などの制約が課される中において、新型コロナウイルス関連の報道を精力的に続けていた(cf. 日本民間放送連盟研究所, 2020)。そして、取材が困難になる中、テレビは医療現場や感染の当事者、関係者からのソーシャルメディア等を使った発信を伝えるという形で情報の不足を補い、また、テレビでの報道が Twitter を中心としたソーシ

[†] 立教大学社会学部兼任講師 ry2k@tku.ac.jp

ャルメディアで話題になるといった循環的な情報の流れが発生していた(高橋・原, 2020)。すなわち、テレビを中心としたマスメディアが新型コロナウイルスに関するさまざまな情報を大々的に報道することで、人々は新型コロナウイルスについての知識を獲得し、またソーシャルメディアでそれについて会話を交わすことにより、リスク認知や感染対策などに対する意見を形成していった可能性があることが考えられる。そのことに着目して、安藤ほか(2022)は、新型コロナウイルス感染症のリスクや不安に、デモグラフィック要因のみならず情報接触が及ぼす影響について検討を行っている。そこでは、新型コロナウイルスに対するリスク認知や不安は、一貫して女性が高いこと、リスク認知はテレビニュース、ネットニュースとの接触が、不安は SNS との関連が強いことが示されている。

筆者が所属する「メディア利用と日本人意識」研究会^{注)}では、これまで、テレビをはじめとするメディアで伝えられる出来事やニュース、ドラマなどでの表象を通して自身や他国の人々の国民性や愛国心がいかに醸成されるか、また、グローバル時代においてニュースや SNS の投稿などで伝えられる世界像やそこで活躍する日本人の姿を通して日本人としての誇りやグローバル意識がいかに形成、維持されていくかについて、さまざまなアプローチを通して明らかにすることを試みてきた(有馬ほか, 2019; 志岐ほか, 2019; 藤井ほか, 2019; 藤井ほか, 2020; 有馬ほか, 2020; 志岐ほか, 2020; 有馬ほか, 2021; 山下ほか, 2021; 藤井ほか, 2021; 山下ほか, 2022; 有馬ほか, 2022, 有馬, 印刷中)。新型コロナウイルスの流行は、外国発の輸入感染症であること、また、世界的な大流行を示していること、その中において、日本の死者数が抑え込まれていること(Iwasaki, & Grubaugh, 2020)から、人々の間に日本と世界とを対比することを促進し、他国と比較しての日本の優劣を意識し、自身の日本人としてのアイデンティティへの注目を高めていることが予想される。その結果、他国民や自身が考える日本人としての規範に従わない人に対する忌避感情や差別意識を醸成する可能性もあると思われる。一方で、世界的な感染症の流行(パンデミック)は一国だけでは対処できない事態であることから、全世界をあげた協力の必要性を強く認知する機会を提供しているとも考えられる。さらに、このような新型コロナウイルスに関する情報は、ほぼすべて何らかのメディアを通じて知ることになる。したがって、このような日本人意識やグローバル意識には、メディア接触の多寡、およびどのようなメディアに接触したかが大きく関わり、さらにそれら日本人意識やグローバル意識の違いが、新型コロナウイルスに対する認知や態度に影響を与えていると考えられる。そのような観点から、有馬ほか(2020)では、メディアの利用に関心の低い人たちの間で、肯定的な日本人アイデンティティを持つ場合に新型コロナウイルスへの情報希求や新型コロナウイルスに対する方針や意見に賛同する度合いが高いことを明らかにし、山下ほか(2020)では、新型コロナウイルスへの情報希求の度合いの違いにより、新型コロナウイルスに対する方針や意見、日本人意識やグローバル意識が異なることが示され、情報をより希求する方が日本人意識やグローバル意識が高いことを示した。しかしながら、これらの研究では、日本人意識とグローバル意識、メディア利用パターンがどのように関連しながら新型コロナウイルスに対する方針や意見の賛否に影響を与えているかについては、詳細には検討できていない。

本研究では、以上のような問題意識のもと、日本人の新型コロナウイルスに対する意見や方針に対する賛否に、人々の日頃の情報収集や新型コロナウイルスに関する情報収集のあり方と日本人意識やグローバル意識がどのように影響を与えるか、2020年11月に行った Web 調査のデータの一部を用いて明らかにすることを

試みる。特に以下の4点を研究課題とし、検討を行うことを目的とする。

- (1)人々の日常的な情報収集や新型コロナウイルス関連の情報収集に利用するメディアの違いから、人々のメディア利用タイプは、どのように分類可能か。
- (2)メディア利用タイプにより、新型コロナウイルスに関する方針や意見に対する態度はどのように違うのか。
- (3)メディア利用タイプにより、新型コロナウイルスに関する情報希求の度合いやリスク認知はどう異なるか。
- (4)新型コロナウイルスに関する方針や意見への賛否に、メディア利用タイプや日本人意識、グローバル意識はどのように関係しているのか。

2. 方法

2.1 手続き

日本在住の20～70代の日本人308名(男性153名、女性155名)が、2020年11月15日にクラウドソーシングサービス Lancers にて調査協力に同意し、Web 上で回答した。謝礼として、回答1件あたり110円を提示した。この調査を実施するにあたり、東京経済大学コミュニケーション学部・大学院コミュニケーション学研究科調査・実験等研究倫理小委員会より倫理審査を受け、承認を受けている(承認番号2020-02)。

2.2 調査項目

紙幅の関係上で、本稿の分析で使用した項目について説明する。なお、デモグラフィック項目として、性別、年齢(20歳から5歳刻み、70歳以上は一括の11段階、調査対象者には含まれないが選択肢には19歳以下が含まれており、見かけ上は12段階)、学歴、職業、婚姻(経験)の有無、子どもの有無、海外在住経験とその期間を尋ねた。

(1)メディア利用について

世の中の出来事に関する情報を入手するのに利用するメディアの情報源を15項目(「どれも利用しない」も含む)の中から、あてはまるものをすべて選択してもらった。

(2)新型コロナウイルスについての情報源や態度について

①世の中の出来事と同様に、新型コロナウイルスに関する情報を入手するのに利用するメディアの情報源を15項目の中から、あてはまるものをすべて選択してもらった。また、「どれも利用しない」を除く14項目の中からもっとも重視するものを1つ選択してもらった。

②新型コロナウイルスに関する情報をメディアから入手したいと思う度合いについて「ウイルスの病理学的情報」、「ワクチンに関する情報」、「医療現場の声」など10項目に対して、「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の5件法で回答してもらった。

③新型コロナウイルスによって引き起こされると考えられるリスク事態7項目(「自分が罹患する確率」、「自分の住んでいる地域で医療崩壊が起こる確率」、「ウイルスが突然変異し強毒化する確率」など)が今後3か月以内(2021年2月初旬まで)に起こると思われる確率を0～100%の確率で回答してもらった。

④新型コロナウイルスに関する方針・意見15項目(「大学での対面授業がほとんど行われていないのはおか

しい」、「新型コロナウイルスによる犠牲者が出るとしても経済活動を優先させるべきだ」、「海外からの入国制限は正しい措置である」など)に対して賛否の度合いを、「全くそう思わない」～「非常にそう思う」の5件法で回答してもらった。

(3)日本人・グローバル意識

- ①日本人の条件として考えているものを問うものとして、辻・齋藤(2018)のナショナリズム意識調査21項目のうちの A 群を参考に独自に8項目を設定し、「ある人を本当に日本人であるとみなすため」に重要だと思う程度を「全く重要ではない」～「とても重要だ」の4件法で回答を求めた。
- ②ナショナリズム・愛国心を測定するものとして、Karasawa(2002)のナショナリズム・愛国心を参考としたナショナリズム・愛国心尺度(村田ほか、2005)を、「全くそう思わない」～「非常にそう思う」の7件法で回答してもらった。
- ③日本の誇りを測定するものとして、辻(2008)のナショナル・プライド12項目を参考に、15項目を設定し、「全く誇りに思わない」～「非常に誇りに思う」の4件法で回答してもらった。
- ④グローバル意識を測定するものとして、岩田(1998)のコスモポリタニズム尺度の第2因子(異文化体験志向)4項目および第3因子(運命共同体意識)5項目に、「外来文化を積極的に取り入れることは日本にとってプラスになる」など外国へ門戸を開放することへの賛否を問う質問2項目、「自分の同僚やクラスメートに外国人が増えることに不安を感じない」など身近に外国人がいることの賛否を問う2項目を加えた計13項目を「全くそう思わない」～「非常にそう思う」の5件法で回答してもらった。
- ⑤日本の対外政策に対する賛否について、辻(2008)を参考に、対外的政策に対する態度(右傾化および排外主義的態度)を測定する質問8項目に、「賛成」、「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」、「反対」、「わからない」の5つの選択肢の中から1つを選択してもらった。

3. 結果

3.1 尺度の検討

新型コロナウイルスについての方針・意見への賛否、日本人の条件、日本の誇り、ナショナリズム・愛国心、グローバル意識(コスモポリタニズム)、対外政策それぞれについて、因子分析(最尤法・プロマックス回転)により、因子を抽出した。

(1)新型コロナウイルスについての方針・意見への賛否

新型コロナウイルスについての方針・意見への賛否では、4因子が抽出され、それぞれ、第1因子を「経済優先」(「Go To キャンペーンなどの消費拡大政策は必要である」、「新型コロナウイルスによる犠牲者が出るとしても経済活動を優先させるべきだ」など5項目)、第2因子を「感染対策」(「感染により重症化する恐れのある高齢者などのワクチン接種が優先されるのは当然だ」「飲食店の夜の営業時間を短縮するのはよいことだ」など5項目)、第3因子を「対面重視」(「大学での対面授業がほとんど行われていないのはおかしい」「テレワークを今後も推奨するべきである(逆転項目)」など3項目)、「水際対策」(「海外からの入国制限は正しい措置である」、「海外渡航の制限は正しい措置である」の2項目)と命名した(表1参照)。

表1 新型コロナウイルスに対する方針・意見の因子分析結果

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	共通性
第1因子：経済優先($\alpha=.702$)					
Go Toキャンペーンなどの消費拡大政策は必要である	.782	.200	-.083	-.120	.572
新型コロナウイルスによる犠牲者が出るとしても経済活動を優先させるべきだ	.599	-.191	.095	.037	.508
緊急事態宣言の解除の時期は妥当であった	.557	.268	-.026	.005	.284
ゼロリスクになるまで社会・経済活動の制限を続けるべきだ	-.463	.263	-.074	-.026	.389
感染者のうちほとんどの人は周囲の人に感染させていない	.423	.083	.096	-.037	.210
第2因子：感染対策($\alpha=.622$)					
感染により重症化する恐れのある高齢者などのワクチン接種が優先されるのは当然だ	.269	.586	.042	-.029	.302
PCR検査の件数を増やすべきである	-.324	.564	.223	-.054	.413
飲食店の夜の営業時間を短縮するのはよいことだ	-.126	.555	-.239	-.062	.494
医療従事者のワクチン接種が優先されるのは当然だ	.196	.417	.077	.266	.290
重症患者が増えた場合に、治療を受けることのできる順位を予め決めておくべきである	.114	.376	-.022	.127	.187
第3因子：対面重視($\alpha=.706$)					
大学での対面授業がほとんど行われていないのはおかしい	.055	.239	.905	.061	.746
大学ではオンライン授業を続けるべきである	.004	.109	-.687	.071	.574
テレワークを今後も推奨するべきである	.085	.317	-.385	.096	.352
第4因子：水際対策($\alpha=.799$)					
海外からの入国制限は正しい措置である	-.087	-.002	-.023	.802	.709
海外渡航の制限は正しい措置である	-.074	.104	-.008	.702	.626
因子寄与	2.523	2.468	2.238	2.229	
因子間相関					
	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	
Factor1	1.000				
Factor2		1.000			
Factor3			1.000		
Factor4				1.000	

(2)日本人の条件

日本人の条件では2因子が抽出され、第1因子を「民族性」(「日本で生まれたこと」、「先祖に外国人がいないこと」など4項目)、第2因子を「法制度への忠誠」(「日本で税金を払っていること」、「日本の政治制度や法律を尊重していること」など4項目)と命名した(表2参照)。

表2 日本人の条件の因子分析結果

	Factor1	Factor2	共通性
第1因子：民族性($\alpha=.818$)			
日本で生まれたこと	.951	-.179	.719
先祖に外国人がいないこと	.682	-.011	.456
人生の大部分を日本で暮らしていること	.613	.242	.625
日本語が流暢であること	.492	.238	.448
第2因子：法制度への忠誠($\alpha=.720$)			
自分自身を日本人だと思っていること	-.064	.654	.378
日本で税金を払っていること	-.057	.640	.366
日本の政治制度や法律を尊重していること	.028	.634	.425
日本国籍を持っていること	.128	.556	.417
因子寄与	2.835	2.648	
因子間相関			
	Factor1	Factor2	
Factor1	1.000		
Factor2		1.000	

(3)日本の誇り

日本の誇りについては、3因子が抽出された。第1因子は「伝統工芸」や「歴史的建造物」、「食文化」など伝統文化や「ポピュラー文化（アニメ、J-POP など）」、「科学技術」、「スポーツ分野での日本人の活躍」など現代日本人の文化的活躍を示す7項目で構成されたことから「文化」と命名した。第2因子は「日本人の人柄」、「生活習慣」など、日本人の人となりを示す項目や「社会保障制度」、「治安」、「医療水準」、「民主主義の現状」など社会的生活の平穏さや水準の高さを示す6項目で構成されたことから、「社会・生活」と命名した。第3因子は、「天皇の存在」、「自衛隊」の2項目から構成され、「国体護持」と命名した（表3参照）。

表3 日本人の誇りの因子分析結果

	Factor1	Factor2	Factor3	共通性
第1因子：文化($\alpha=.844$)				
伝統工芸	.879	-.076	-.080	.620
歴史的建造物	.817	-.193	.138	.634
食文化	.799	.005	-.093	.560
自然	.526	.039	.192	.475
ポピュラー文化（アニメ、J-POPなど）	.474	.139	-.125	.250
科学技術	.385	.311	.127	.519
スポーツ分野での日本人の活躍	.298	.166	.184	.316
第2因子：社会・生活($\alpha=.774$)				
日本人の人柄	.053	.808	-.115	.611
民主主義の現状	-.180	.654	.110	.379
社会保障制度	-.125	.614	.026	.310
生活習慣	.201	.543	-.144	.370
治安	.120	.449	-.001	.284
医療水準	.116	.369	.268	.426
第3因子：国体護持($\alpha=.643$)				
自衛隊	-.073	-.072	.931	.724
天皇の存在	.152	.203	.371	.398
因子寄与	4.703	4.221	3.410	
因子間相関				
	Factor1	Factor2	Factor3	
Factor1	1.000	.638	.622	
Factor2		1.000	.567	
Factor3			1.000	

(4)ナショナリズム・愛国心

ナショナリズム・愛国心については、3因子が抽出され、それぞれ第1因子を「愛国心」（「日本人でよかったと思う」、「日本が好きだ」など5項目）、第2因子を「ナショナリズム」（「日本の大幅な貿易黒字は優れた技術と努力の結果である」、「日本はいろいろな分野で世界をリードすべきである」など5項目）、第3因子を「日本の伝統・象徴重視」（「『日の丸』はすばらしい国旗である」、「神社・仏閣に参拝することは日本人として望ましい」など5項目）と命名した（表4参照）。

表4 愛国心・ナショナリズムの因子分析結果

	Factor1	Factor2	Factor3	共通性
第1因子：愛国心($\alpha=.917$)				
日本人でよかったと思う	.916	.052	-.047	.855
日本が好きだ	.901	-.020	-.014	.772
日本人であることに、幸せを感じている	.853	.083	-.009	.824
日本人であることを誇りに思う	.687	.153	.112	.776
日本にはあまり愛着をもっていない	-.641	.122	-.101	.390
第2因子：ナショナリズム($\alpha=.824$)				
日本の大幅な貿易黒字は優れた技術と努力の結果である	-.064	.868	-.001	.678
日本が戦後驚異的な成長を遂げたのは、日本人が勤勉であったからだ	.033	.795	-.063	.607
日本はいろいろな分野で世界をリードすべきである	.045	.654	.059	.528
日本の経済力を考えれば、国連や国際会議における日本の発言権はもっとも大きくあるべきだ	-.037	.652	.102	.483
日本人は他の民族に比べて、とりたてて優秀な民族だとは思わない	-.216	-.418	.085	.289
第3因子：日本の伝統・象徴重視($\alpha=.844$)				
「君が代」を聞くと気持ちが高まる	-.017	-.105	.892	.672
「日の丸」はすばらしい国旗である	.032	.037	.743	.622
式典などで「君が代」を歌う必要はない	-.040	.067	-.682	.443
天皇は日本の象徴としてふさわしい	.082	.154	.564	.536
神社・仏閣に参拝することは日本人として望ましい	-.019	.201	.525	.433
因子寄与	6.119	5.757	5.250	
因子間相関				
	Factor1	Factor2	Factor3	
Factor1	1.000	.711	.627	
Factor2		1.000	.637	
Factor3			1.000	

(5) グローバル意識

グローバル意識については、4因子が抽出された。第1因子は、「裕福な国はかなり犠牲を払っても貧しい国を援助すべきである」、「外来文化を積極的に取り入れることは日本にとってプラスになる」、「もっと日本はいろいろな部分で外国に対して門戸を開放した方がよい」など5項目で構成され、「地球運命共同体意識」と命名した。第2因子は、「自分の同僚やクラスメートに外国人が増えることに不安を感じない」、「隣人が日本人であるか外国人であるかは気にしない」の2項目で構成され、「異文化受け入れ指向」と命名した。第3因子は、「できるだけ多くの国の文化や生活について知りたい」、「外国の生活や文化に触れると感動する」など3項目で構成され、「異文化体験指向」と命名した。第4因子は、「いかなる民族も誇るべき文化を持っている」、「発展途上の貧しい国々もわれわれ同様優れた文化を持っている」など3項目で構成され、「文化平等意識」と命名した(表5参照)。

表5 グローバル意識の因子分析結果

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	共通性
第1因子：地球運命共同体($\alpha=.749$)					
裕福な国はかなり犠牲を払っても貧しい国を援助すべきである	.750	-.008	-.038	-.050	.489
地球上の国々は運命共同体である	.572	-.156	.032	.121	.341
外来文化を積極的に取り入れることは日本にとってプラスになる	.487	.327	-.052	.080	.555
もっと日本はいろいろな部分で外国に対して門戸を開放した方がよい	.452	.431	.093	-.112	.622
将来に備えていくら努力をしても一国だけでは生き残れない	.442	-.158	.053	.100	.208
第2因子：異文化受け入れ指向($\alpha=.832$)					
自分の同僚やクラスメートに外国人が増えることに不安を感じない	-.166	.934	-.023	.063	.742
隣人が日本人であるか外国人であるかは気にしない	-.084	.864	.014	.005	.684
第3因子：異文化体験($\alpha=.756$)					
できるだけ多くの国の文化や生活について知りたい	.015	-.086	.867	.029	.715
外国の生活や文化に触れると感動する	-.046	.018	.663	.042	.444
できるだけ多くの違った国々に住んでみたい	.086	.110	.589	-.088	.449
第4因子：文化平等意識($\alpha=.783$)					
いかなる民族も誇るべき文化を持っている	.106	-.094	-.009	.861	.775
発展途上の貧しい国々もわれわれ同様優れた文化を持っている	.062	.098	-.077	.771	.673
民族や文化に優劣はない	-.092	.168	.200	.479	.407
因子寄与	3.487	3.463	3.147	3.025	
因子間相関					
	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	
Factor1	1.000	.584	.553	.550	
Factor2		1.000	.534	.426	
Factor3			1.000	.436	
Factor4				1.000	

(6) 対外政策

対外政策については2因子が抽出され、第1因子を「対外共生指向」（「日本の大学や高等教育機関での留学生受け入れ数を増やす」、「移民を受け入れる」など5項目）、第2因子を「対外敵対指向」（「憲法9条を改正して自衛隊を明記する」、「日本の防衛力をさらに強化する」など3項目）と命名した（表6参照）。

表6 対外政策の因子分析結果

	Factor1	Factor2	共通性
第1因子：対外共生指向($\alpha=.678$)			
日本の大学や高等教育機関での留学生受け入れ数を増やす	.867	-.137	.727
海外の大学や高等教育機関で日本人が勉強・研究する機会を増やす	.538	-.116	.281
移民を受け入れる	.482	.035	.240
韓国とのGSOMIA(軍事情報包括保護協定)を継続する	.448	.252	.305
日本でオリンピックや万博などの国際イベントを数多く開催する	.383	.236	.236
第2因子：対外敵対指向($\alpha=.671$)			
憲法9条を改正して自衛隊を明記する	-.051	.790	.613
日本の防衛力をさらに強化する	-.119	.662	.424
駐留費を米軍に支払うようにする	.244	.491	.344
因子寄与	1.761	1.528	
因子間相関			
	Factor1	Factor2	
Factor1	1.000	.182	
Factor2	.182	1.000	

(7)新型コロナウイルス関連の情報希求およびリスク認知

さらに、新型コロナウイルスに関する情報をメディアから入手したいと思う度合い、および、新型コロナウイルスによって引き起こされると考えられるリスク認知については一因子構造であることが確認され、それぞれの信頼性係数 α は、 $\alpha=.839$ 、 $\alpha=.894$ であった。

3.2 メディア利用のタイプ

世の中の出来事に関する情報源および新型コロナウイルスについての情報源計28項目の回答についてクラスター分析(ワード法・ローデータによるユークリッド距離)を行い、回答者のメディア利用タイプを分類した。デンドログラムの減衰を吟味した結果、5つのクラスターを抽出した。第1クラスターは、世の中の出来事および新型コロナウイルスについて、ほぼすべての情報源を平均以下しか利用せず、新型コロナウイルスについて SNS、Twitter などの個人アカウントによる投稿のみ、平均よりわずかに利用する群であった。そのため、「情報低関心型」と命名した。第2クラスターは、世の中の出来事、新型コロナウイルス両方の情報収集において紙の新聞、テレビを利用せず、自治体のホームページ、新聞社、通信社によるオンラインニュース、ニュースアプリ、SNSの公式アカウント、個人による投稿、海外ニュースサイトを平均より多く利用することから「ネット中心型」と命名した。第3クラスターは、両方の情報についてテレビのニュース番組、民放の情報ワイド番組、ポータルサイトのみ平均よりよく利用することから「マスコミ・ソフトニュース型」と命名した。第4クラスターは、両方の情報についてすべての情報源を平均より非常に多く利用することから「多メディア利用型」と命名した。第5クラスターは、SNSの公式アカウント、個人による投稿、ネット掲示板やまとめサイトを平均以下しか利用せず、テレビ全般、紙の新聞や新聞社、通信社のオンラインニュースやニュースアプリを利用することから、「公式ニュース指向型」と命名した。それぞれのクラスターの人数、男女比、平均年齢階層は表7の通りである。それぞれのクラスターの構成比において、性差は見られなかったが、年齢階層には有意水準1%でクラスターの有意な主効果があり($F(4, 303)=4.910$, $p=.001$, $\eta_p^2=.061$)、第5クラスターが第1クラスターより有意水準1%、第2、第3クラスターより有意水準5%で高かった。

表7 利用メディアクラスターの構成

	男性	女性	年齢階層(SD)
情報低関心型(N=71)	36	35	5.507(.228)
ネット中心型(N=41)	26	15	5.927(.301)
マスコミ・ソフトニュース型(N=122)	59	63	6.057(.174)
多メディア利用型(N=26)	10	16	6.000(.378)
公式ニュース指向型(N=48)	22	26	7.083(.278)

注：年齢階層は19歳以下～70歳以上の5歳刻み12段階。5は35～39歳、6は40～45歳、7は45～49歳。

3.3 メディア利用タイプと新型コロナウイルス関連の認知・態度との関係について

(1)メディア利用タイプ別の新型コロナウイルス情報希求・リスク認知について

メディア利用タイプの違いにより、新型コロナウイルス情報を希求する度合いに違いが見られるか、一元配置の分散分析を行った。その結果、新型コロナウイルスに情報を求める度合いに、有意水準0.1%以下でメデ

メディア利用タイプの主効果が見られた($F(4, 295)=6.282, p<.001, \eta_p^2=.078$)。多重比較の結果、「情報低関心」型に比べ、「多メディア利用」型と「公式ニュース指向」型が有意水準1%で、有意に情報をより求めることが示された。また、「情報低関心」型に比べ、「ネット中心」型の方が有意水準5%で、有意に情報をより求めることが示された。さらに、「マスコミ・ソフトニュース」型に比べ、「多メディア利用」型と「公式ニュース指向」型の方が有意水準5%で、有意に情報をより求めることが示された。他方、新型コロナウイルスに対するリスク認知については、同様に一元配置の分散分析を行ったが、メディア利用のタイプの主効果は見られなかった($F(4, 295)=1.035, p=.389, \eta_p^2=.014$)(表8参照)。

表8 メディア利用タイプ別の新型コロナウイルスに関する情報の希求とリスク認知

	情報希求		リスク認知	
	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差
情報低関心型(N=71)	2.982	0.092	-0.373	0.111
ネット中心型(N=41)	3.410	0.117	-0.195	0.143
マスコミ・ソフトニュース型(N=122)	3.166	0.069	0.150	0.083
多メディア利用型(N=26)	3.671	0.153	0.158	0.174
公式ニュース指向型(N=48)	3.510	0.109	0.158	0.133

(2)メディア利用タイプ別の新型コロナウイルスに関する方針・意見への賛否と対外政策について

メディア利用タイプの違いにより、新型コロナウイルスに関する方針・意見への賛否の度合いに違いが見られるか、一元配置の分散分析を行った。その結果、「経済優先」では、メディア利用のタイプの主効果は見られなかった($F(4, 272)=0.330, p=.857, \eta_p^2=.005$)。「感染対策」では、有意水準1%でメディア利用タイプの主効果が見られた($F(4, 272)=4.640, p=.001, \eta_p^2=.064$)。多重比較の結果、「情報低関心」型に比べ「マスコミ・ソフトニュース」型の方が、有意水準1%で「感染対策」に賛同する度合いが高かった。また、「情報低関心」型に比べ「公式ニュース指向」型の方が、有意水準5%で「感染対策」に賛同する度合いが高かった。「対面重視」、「水際対策」では、ともにメディア利用のタイプの主効果は見られなかった(「対面重視」: $F(4, 272)=0.333, p=.856, \eta_p^2=.005$ ；「水際対策」: $F(4, 272)=0.619, p=.649, \eta_p^2=.009$)。

他方、新型コロナウイルスとは直接関連しない対外的な政策への賛否が、利用メディアのタイプにより違うかどうか、一元配置分散分析を行った。その結果、「対外共生指向」では、有意水準5%でメディア利用タイプの主効果が見られた($F(4, 272)=3.206, p=.014, \eta_p^2=.045$)。多重比較の結果、「公式ニュース指向」型が、「情報低関心」型と「ネット中心」型に比べ、有意水準5%で「対外共生指向」の政策への賛同の度合いが強いことが示された。「対外敵対指向」では、分散分析の結果、政策への賛否にメディア利用タイプの主効果は見られなかった($F(4, 272)=1.440, p=.221, \eta_p^2=.021$)。(表9参照)。

表9 メディア利用タイプ別の新型コロナウイルスに関する方針・意見および対外政策に対する賛否

	経済優先		感染対策		対面重視		水際対策		対外共生指向		対外敵対指向	
	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差
情報低関心型(N=71)	0.009	0.113	-0.373	0.111	0.066	0.117	-0.068	0.115	-0.204	0.112	-0.095	0.112
ネット中心型(N=41)	0.039	0.145	-0.195	0.143	-0.108	0.150	-0.162	0.147	-0.267	0.144	0.113	0.143
マスコミ・ソフトニュース型(N=122)	-0.032	0.084	0.150	0.083	0.002	0.087	0.051	0.085	0.024	0.083	-0.029	0.083
多メディア利用型(N=26)	0.120	0.177	0.158	0.174	0.124	0.183	0.061	0.179	0.067	0.175	0.325	0.174
公式ニュース指向型(N=48)	0.123	0.135	0.158	0.133	0.062	0.139	0.092	0.137	0.326	0.134	-0.121	0.133

(3)メディアの利用タイプと日本人意識・グローバル意識の新型コロナウイルスに関する方針・意見の評価への影響について

新型コロナウイルスに関する方針・意見に対して、メディア利用、日本人意識およびグローバル意識がどのように影響を与えているか、新型コロナウイルスに対する方針・意見の4因子をそれぞれ目的変数、日本人の条件2因子、日本の誇り3因子、愛国心・ナショナリズム3因子、グローバル意識4因子、新型コロナウイルス情報希求の度合い、新型コロナウイルスに対するリスク認知、メディア利用タイプ(「マスコミ・ソフトニュース」型をベースとしたダミー変数)を説明変数とした重回帰分析を行った。なお、調整変数として、性別(男=1、女=2)と年齢階層を投入している。

まず、「経済優先」については、日本人の条件の「民族性」が有意水準5%で有意な負の効果($\beta = -.214$, $p = .010$)、日本の誇りの「社会・生活」が有意水準5%で有意な正の効果($\beta = .267$, $p = .010$)を持っていた。また、新型コロナウイルス関連情報の希求、リスク認知が有意水準0.1%以下で負の効果(情報希求: $\beta = -.308$, リスク認知: $\beta = -.010$, 共に $p < .001$)を持っていた。さらに、ベースである「マスコミ・ソフトニュース」型に比して「多メディア利用」型であることが有意水準5%で正の効果を持っていた($\beta = .429$, $p = .019$)。「感染対策」については、愛国心・ナショナリズムの「ナショナリズム」が有意水準5%で有意な正の効果($\beta = .219$, $p = .025$)、新型コロナウイルス関連情報の希求が有意水準0.1%以下で有意な正の効果($\beta = .288$, $p < .001$)を持っていた。また、ベースである「マスコミ・ソフトニュース」型に比して「情報低関心」型、「ネット中心」型であることが、有意水準5%で有意な負の効果を持っていた(「情報低関心」型: $\beta = -.315$, $p = .013$; 「ネット中心」型: $\beta = -.335$, $p = .028$)。「対面重視」では、年齢階層が有意水準1%で有意な正の効果($\beta = .076$, $p = .007$)を持っていた。また、新型コロナウイルス関連情報の希求が有意水準0.1%以下で負の効果($\beta = -.383$, $p < .001$)、リスク認知が有意水準1%で負の効果($\beta = -.008$, $p = .007$)を持っていた。メディア利用タイプの効果は見られなかった。「水際対策」については、日本人の条件の「法制度への忠誠」が有意水準5%で有意な正の効果を持っていた($\beta = .215$, $p = .038$)。また、ナショナリズム・愛国心の「ナショナリズム」が有意水準1%で有意な正の効果($\beta = .306$, $p = .004$)、「日本の伝統・象徴重視」が有意水準5%で有意な負の効果($\beta = -.213$, $p = .019$)を持っていた。メディア利用タイプの効果は見られなかった(表10参照)。

表10 新型コロナウイルスに関する方針・意見についての重回帰分析結果

従属変数：新型コロナウイルスに関する 方針・意見4因子 (因子得点)	経済優先	感染対策	対面重視	水際対策
標準回帰係数(β)				
性別(男性=1, 女性=2)	-0.141	0.080	-0.061	0.130
年齢階層(1~12)	-0.022	-0.009	0.076 **	0.008
民族性	-0.214 *	0.083	-0.011	-0.028
法制度への忠誠	0.027	0.119	-0.043	0.215 *
愛国心	0.014	-0.011	0.020	0.148
ナショナリズム	-0.157	0.219 *	-0.052	0.306 **
日本の伝統・象徴重視	0.107	-0.082	-0.095	-0.213 *
文化	-0.050	-0.064	0.199	0.024
社会・生活	0.267	0.105	-0.032	-0.193
国体護持	0.184	-0.027	-0.128	0.142
地球運命共同体意識	0.108	0.071	0.116	-0.177
異文化受け入れ志向	0.114	0.110	0.044	0.024
異文化体験志向	-0.160	0.115	-0.042	0.086
文化平等意識	0.001 **	0.007	-0.044	0.061
リスク認知	-0.010	0.001	-0.008 **	0.001
情報希求	-0.308	0.288 ***	-0.383 ***	0.112
メディア利用タイプ				
情報低関心型	0.099	-0.315 **	0.123	-0.049
ネット中心型	0.268	-0.335 **	0.068	-0.171
多メディア利用型	0.429 *	-0.315	0.343	-0.170
公式ニュース指向型	0.245	-0.198	0.166	-0.150
n	275	275	275	275
F 値	4.990	6.000	3.450	3.330
Adjust R^2	.225 ***	.268 ***	.152 ***	.145 ***

4. 考察

4.1 メディア利用のタイプについて

今回の研究では、日常的に情報収集に用いるメディアと新型コロナウイルス関連の情報の収集に用いるメディアの種類により、メディア利用タイプを分類した。その結果、いずれのメディアも平均以下しか用いない情報収集に無関心な群と、マスメディア、インターネット系のメディアいずれのメディアも平均以上に用いる情報収集に非常に熱心な群が一定数いることが明らかになった。また、もっとも人数が多いのは、テレビニュースやワイドショー、インターネットではポータルサイトを利用する「マスコミ・ソフトニュース」型であった。すなわち、多くの人々はいまだに情報を、テレビニュースやワイドショー、インターネットブラウザを開いた時に最初に目にするポータルサイトのような受動的なマス向け媒体で入手しているということが示唆される。他方、そのようなマス向け媒体を平均以下しか使わず、SNS などパーソナライズされた情報にもっぱら接触する群、テレビニュースに加えて紙の新聞、新聞社の公式ホームページなどいわゆる硬派なメディアを多く利用し SNS をあまり用いない群も抽出されており、メディア利用タイプの違いにより、情報格差が生じている可能性が示唆される。この情報格差は、情報低関心型と多メディア利用型のように、いずれかのタイプがすべての情報ジャンルに対して多くを持つ、または少なく持つ、と考えられる場合もあるが、それ以外の3クラスターはある特定の情報ジャン

ルについては多くを持ち、別の情報ジャンルについては少なくしか持たない、という形で発生していると考えられる。このジャンルごとに異なる情報の格差が、人々の知識や経験の差異を生み出し、ひいては価値観の違いを生み出していることは十分に予想される。それは、今回の研究におけるさまざまな分析においても、その一端を垣間見ることはできたのではないと思われる。

4.2 メディア利用タイプと新型コロナウイルス情報の希求とリスク認知について

新型コロナウイルス情報を求める度合いは、「情報低関心」型が、他のクラスターに比べて低い、ということは、あらゆる情報に対して関心が低いことが予想されることから、当然の結果であるといえよう。また、能動的に情報を収集する「ネット中心」型は「情報低関心」型よりも新型コロナウイルス情報を求める度合いが高かった。そして受動的に情報を収集する「マスコミ・ソフトニュース」型よりも、積極的に情報を収集する「多メディア利用型」や硬派で社会的な情報を多く収集する「公式ニュース指向」型の方が新型コロナウイルス情報を求めている。新型コロナウイルスに関連する情報においても、情報収集を能動的に行う層が、より情報を希求していることが示されている。そして、「マスコミ・ソフトニュース」型の人たちは、テレビニュースやワイドショーなどで接触できる情報のみに依存している可能性が高く、新型コロナウイルスに関しても、その内容に大きく認知、態度が左右されている可能性があると思われる。

情報収集についてはメディア利用タイプにより差異が見られたものの、リスク認知については、タイプによる違いは見られなかった。これは、認知されるリスクとして、自身や身近な他者の感染可能性や重症化する可能性、自分が住む地域で医療崩壊を起さる可能性という項目が含まれていたため、いずれのタイプの人たちも、客観的なリスク評価よりも正常性バイアスによる評価が強く働いたためではないかと考えられる。

4.3 メディア利用タイプと新型コロナウイルスに関する方針・意見、对外政策について

メディア利用タイプの違いによる新型コロナウイルスに関する方針・意見への賛否の度合いの違いは「感染対策」のみに見られ、「情報低関心」型が、「マスコミ・ソフトニュース」型、「公式ニュース指向」型よりも賛同する度合いが低かった。「感染対策」に含まれる方針は、ワクチン接種や治療が受けられる人の優先順位や PCR 検査の件数の増加など、医療現場に関連する情報が多く含まれるものとなっていた。調査が行われた時期よりやや先行するものの、2020年1月中旬から7月末までのテレビニュースやワイドショーで扱われたテーマは、PCR 検査や自粛、マスクなど感染対策に含まれるものが多くなっていたことが示されている（高橋・原，2020）。そのことにより、「マスコミ・ソフトニュース」型の人たちは「感染対策」に関する情報に多く接触することになり、これらの態度にも影響していたのではないかと考えられる。

ただし「マスコミ・ソフトニュース」型は、新型コロナウイルスに関する情報を「公式ニュース指向」型よりも希求しないクラスターであったことから、双方のクラスターに所属する人達がこの判断を下すに至るまで接触したであろう情報には、量、質ともに差があったのではないかと考えられる。

他方、それ以外の方針については、メディア利用タイプの差が見られなかった。これらの方針・意見は、「経済優先」以外は自身にとって身近ではない出来事である人も多く（大学のオンライン授業や海外渡航など）、情報収集をするためのメディア利用の際に重要なトピックとして候補に入れられることが少なかった可能性も示唆

される。そのことが、メディア利用タイプによる差異が見られなかった原因の1つと考えられる。

なお、新型コロナウイルスと関連しない対外政策については、「対外共生指向」において、「公式ニュース指向」型が、「情報低関心」型や「マスコミ・ソフトニュース」型よりも強い指向を示した。「対外共生指向」は、移民や留学生を受け入れることを是とする政策であり、新型コロナウイルスについての方針である「水際対策」とは相反する政策といえる。硬派なニュースに多く接触している群は、メディア利用タイプ別で有意な差こそ見られなかったものの、「水際対策」にもっとも賛同している群でもあり、この群は新型コロナウイルスへの対応は必要としながらも、諸外国に対してはオープンであるべきと考えていることが示唆される。

(4) 新型コロナウイルス対策の賛否への日本人意識・グローバル意識・メディア利用行動

新型コロナウイルスに関する方針・意見を目的変数、日本人意識、グローバル意識、メディア利用タイプや情報希求の度合いを説明変数とした重回帰分析の結果から、それぞれの方針・意見に対して、影響を持つ変数が異なることが示された。日本人意識については、日本人の条件の「民族性」が「経済優先」の方針に負の効果、「法制度への忠誠」が「水際対策」に正の効果を持っていた。また、愛国心・ナショナリズムの「ナショナリズム」が「感染対策」と「水際対策」へ正の効果、「日本の伝統・象徴重視」が「水際対策」へ負の効果を持っていた。グローバル意識はいずれの因子も、すべての方針・意見に効果を持っていなかった。「経済優先」へ「民族性」が持つ効果は、グローバル社会において経済発展を最優先に考えるならばいわゆる純血主義は足枷になるかもしれない、という意識の表れと見ることもできるだろう。「水際対策」への「法制度への忠誠」が持つ正の効果は、入国してくる外国人に対して「郷に入れば郷に従え」的な感覚を持っていることを反映している可能性もあるだろう。また、「感染対策」や「水際対策」への「ナショナリズム」の正の効果は、日本を優れた国と見ることが世界的な感染症の日本の対策への高評価や感染症対策のための排外主義を導いている可能性が示唆される。他方、「水際対策」への「日本の伝統・象徴重視」の負の効果は解釈が難しいが、日本人が日の丸や君が代を意識するのはスポーツの国際大会など外国との交流の場面で多いことが、もしかすると関係しているかもしれない。このように、一国内では解決できないようなリスク事態への対応についての賛否に、地球市民の一員であるという感覚よりも日本人であるという意識が、より影響を与えている可能性が示されたといえるだろう。

他方、情報をいかに入手するか、求めるかについては、新型コロナウイルスに関する情報を希求するかどうか、人の流れを認めるかどうかに影響していることも示唆された。「経済優先」、「対面重視」には新型コロナウイルスに関する情報希求は負の効果、「感染対策」には正の効果があり、「水際対策」への効果は有意ではないが効果の方向性は正であった。この調査における「求める新型コロナウイルスに関する情報」は、ほぼすべてウイルス感染を予防し、適切に医療が受けられるかどうかにかかわる情報であった。そのため、感染リスクがあっても人の流れを認める方針を支持する人たちはあえてメディアでこのような情報を求めず、逆に、感染予防のために人の流れを認めない方針を支持する人たちは、積極的にこのような情報を希求していたと考えられる。このことは、「経済優先」、「対面重視」に新型コロナウイルスに対するリスク認知がともに負の効果を持っていたことから支持されるのではないと思われる。また、メディア利用タイプは、「経済優先」には「マスコミ・ソフトニュース」型をベースとして「多メディア利用」型であることが正の効果、「感染対策」には「ネット中心」型、

「情報低関心」型であることが負の効果を持っていたことは、2020年11月当時のマスメディア、特にテレビのワイドショー等でどのように新型コロナウイルスに関する情報が伝えられたかが関係していたのではないかと推察される。高橋・原(2020)は、2020年1月中旬から7月末にかけてはテレビの情報番組やワイドショーでは、新型コロナウイルスに関する話題として、「PCR 検査」、「自粛」、「マスク」が一貫して取り上げられているとし、さらに、七沢・東山・高橋(2021)では、特に「PCR 検査」については、テレビが連日、PCR検査を受けたくても受けられないケースを伝えたことから「検査拡充」という議題を設定したと報告されている。そのため、テレビを情報源の中心とする「マスコミ・ソフトニュース」型の人たちは、情報に接触しない人達や選択的にテレビとは異なる情報に接触可能なネット中心型の人たちに比べ、「感染対策」が新型コロナウイルス対策に関して重要議題であると認知していたのではないかとと思われる。逆に、上記のようにテレビで感染対策に関する報道が中心である中、経済回復を優先すべしと確信するためには、「多メディア利用」型の人たちのように、マスメディアだけでなく多様な情報源に頼る必要があったのではないかと考えられる。この点については、この調査を行った時期のテレビ番組等の厳密な内容分析を行った上での考察ではないため、あくまでも推測の域を出ない。しかしながら、今回の結果は、マスメディアが作り出す議題が、中長期的に様相を変えながら続く社会問題に関する人々の論点を変化させていく可能性について、改めて注目する必要があることを示唆するものといえるだろう。

(5)まとめと今後の展望

今回の研究では、マスメディアやインターネットメディアなど、さまざまなメディアの利用の仕方と、日本人意識やグローバル意識、そして新型コロナウイルス対策への賛否との関連性について検討を行った。その結果、メディア利用パターンにより、新型コロナウイルスに関する情報の希求の度合いやリスク認知が異なり、日本人意識やメディア利用パターンが新型コロナウイルス対策への賛否に影響を及ぼす可能性があることが示された。このように、一国では解決が難しいリスク事態に対する態度に自国人であるという意識や接触するメディアが関連していることは興味深いと考えられる。しかしながら、今回の研究では、日本人意識やグローバル意識がそもそもどのように形成・変容するのか、その醸成にメディアがどのように関連しているのか、という点にまでは踏み込んで検討できていない。今後の研究では、日本人意識やグローバル意識の形成、維持、変容にさまざまなメディアが及ぼす影響について、接触するメディアの内容も考慮に入れながら検討を行うとともに、日本人意識・グローバル意識がメディア利用に影響を及ぼすという循環過程についても着目していきたい。

注

2019年に発足。日本人アイデンティティと関連する可能性が高いと考えられる日本礼賛番組、天皇の代替わり報道、オリンピック・パラリンピック、ワールドカップなどの競技・試合視聴を題材に研究を続けている。2020年以降は、研究の題材に、新型コロナウイルスの流行、ウクライナ情勢など、世界的なリスク事態も加えている。メンバーは筆者の他に、有馬明恵(東京女子大学)、志岐裕子(慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所)、藤井達也(武蔵大学)である。

参考文献

- 安藤香織・竹橋洋毅・梅垣佑介・田中里奈（2022）. 新型コロナウイルス感染症のリスク, 不安は誰が感じているのか: 性別, 年代, 情報接触に着目して 実験社会心理学研究 62(1), 12-24.
- 有馬明恵（2020）. 平成から令和へ, その時, テレビは何を伝えたのかー新元号発表日・退位の日・即位の日の報道特集番組の内容分析から マス・コミュニケーション研究, 97, 203-204.
- 有馬明恵（印刷中）. 天皇の退位・即位関連儀式・行事の中継視聴と日本人意識・コスモポリタニズム意識との関係東京女子大学紀要論集, 73(2).
- 有馬明恵・山下玲子・志岐裕子・藤井達也（2019）. 「日本ネタ」はテレビ番組でどのように描かれているか(1) 番組の基本情報の分析を中心に 日本社会心理学会第 60 回大会発表論文集
- 有馬明恵・藤井達也・志岐裕子・山下玲子（2020）. メディア利用と日本人意識(2) 退位・即位関連行事の中継視聴と日本人意識・コスモポリタニズム意識との関係 日本社会心理学会第 61 回大会発表論文集
- 有馬明恵・山下玲子・藤井達也・志岐裕子（2021）. メディア利用と日本人意識(4) 世の中の出来事・新型コロナウイルスの情報入手タイプと日本人意識の関係 日本社会心理学会第 62 回大会発表論文集
- 有馬明恵・山下玲子・藤井達也（2022）. メディア利用と日本人意識(8) 世の中の出来事の入手タイプとオリンピック・パラリンピックの開催予定で重視する事柄 日本社会心理学会第 63 回大会発表論文集
- 藤和彦（2020）. 新型コロナウイルスのパンデミックがもたらす政治・経済への影響 独立行政法人 経済産業研究所ポリシー・ディスカッション・ペーパー 20-P-032.
- 藤井達也・有馬明恵・志岐裕子・山下玲子（2020）. メディア利用と日本人意識(1) 改元関連行事の中継視聴と皇室に対する態度との関係 日本社会心理学会第 61 回大会発表論文集
- 藤井達也・有馬明恵・山下玲子・志岐裕子（2021）. メディア利用と日本人意識(6) 新型コロナウイルス蔓延による日本人意識の変化の検討 日本社会心理学会第 62 回大会発表論文集
- 藤井達也・山下玲子・有馬明恵・志岐裕子（2019）. 「日本ネタ」はテレビ番組でどのように描かれているか(3) 「日本ネタ」に対する評価内容の分析を中心に 日本社会心理学会第 60 回大会発表論文集
- 岩田紀（1989）. コスモポリタニズム尺度に関する経験的検討 社会心理学研究, 4, 54-63.
- Iwasaki, A. & Grubaugh, N. D. (2020). *Why does Japan have so few cases of COVID-19? EMBO Molecular Medicine*, 12. doi.org/10.15252/emmm.202012481(2022 年 11 月 2 日確認)
- Karasawa, M. (2002). *Patriotism, nationalism, and internationalism among Japanese citizens: An etic-emic approach, Political Psychology*, 23, 645-666.
- 元吉忠寛（2021）. 新型コロナウイルス感染症による人々への心理的影響 社会安全学研究, 11, 97-108.
- 村田光二・稲葉哲郎・向田久美子・佐久間勲・樋口収・高林久美子（2005）. アテネ・オリンピック報道と日本人・外国人イメージ(1)ー愛国心, ナショナリズム尺度の検討ー日本社会心理学会大会第 46 回発表論文集
- 七沢潔・東山浩太・高橋浩一郎（2021）. 「新型コロナウイルス」はどのように伝えられたかーテレビとソーシャルメディアの連関の中でー【第 2 部】PCR 検査・テレビの議題設定と Twitter の反応 放送研究と調査 1 月号 24-60.
- 日本民間放送連盟研究所（2022）. 「コロナ時代の民放報道研究」報告書
- Schaller, M., & Park, J. H. (2011). *The Behavioral Immune System (and Why It Matters)*. *Current*

Directions in Psychological Sciences, 20(2), 99-103.

志岐裕子・有馬明恵・藤井達也・山下玲子（2020）. メディア利用と日本人意識(3)日本ネタ番組視聴と日本人意識・コスモポリタニズム意識との関係 日本社会心理学会第 61 回大会発表論文集

志岐裕子・有馬明恵・山下玲子・藤井達也（2019）. 「日本ネタ」はテレビでどのように描かれているか(2) 番組コーナーの構成要素にみられる特徴について 日本社会心理学会第 60 回大会発表論文集

Solomon, S., Greenberg, J., & Pyszczynski, T. (1991). *A Terror Management Theory of Social Behavior: The Psychological Functions of Self-Esteem and Cultural Worldviews*. In M. P. Zanna (Ed). *Advances in Experimental Social Psychology*, 24, 93-159.

Solomon, S., Greenberg, J., & Pyszczynski, T. (2015). *The Worm at the Core: On the Role of Death in Life*. Random House. (=2017, 大田 直子(訳) なぜ保守化し, 感情的な選択をしてしまうのか—人間の心の芯に巣くう虫 インターシフト)

高橋浩一郎・原由美子（2020）. 「新型コロナウイルス」はどのように伝えられたか～テレビとソーシャルメディアの連関の中で～【第 1 部】データで総覧する報道と投稿の 200 日 放送研究と調査 12 月号 2-35.

辻大介（2008）. インターネットにおける「右傾化」現象に関する実証研究調査結果概要報告書』(日本証券奨学財団助成研究報告書) <http://d-tsuji.com/paper/r04/report04.pdf>, (2022 年 11 月 3 日確認)

辻大介（2018）. インターネット利用は人びとの排外意識を高めるか ソシオロジ, 63(1), 3-20.

辻大介・齋藤僚介（2018）. ネットは日本社会に排外主義を広げるか——計量調査による実証分析 電気通信普及財団研究調査助成 成果報告書 第 33 号

山縣芽生, 寺口司, 三浦麻子（2021）. COVID-19 禍の日本社会と心理——2020 年 3 月下旬実施調査に基づく検討—— 92 (5), 452-462.

山下玲子・有馬明恵・藤井達也（2022）. メディア利用と日本人意識(7) 世の中の出来事の入手タイプと東京オリンピック・パラリンピックの開催への賛否 日本社会心理学会第 63 回大会発表論文集

山下玲子・有馬明恵・藤井達也・志岐裕子（2021）. メディア利用と日本人意識(5) 新型コロナウイルスについて求める情報タイプと日本人意識の関係 日本社会心理学会第 62 回大会発表論文集